

長崎大学外国人留学生（大学院生）による 「プラネタリーヘルス」リモート講義 in English

3月3日（木）、中学3年生4名、高校1年生9名、高校2年生6名が参加し、長崎大学外国人留学生（長崎大学医歯薬学総合研究科リーディング大学院）のみなさんから、遠隔講義を実施していただきました。

大雨や地震などの自然災害がなぜ感染症のリスクを増加させるのかについて説明がありました。次に小グループに分かれ、ノロウイルスとコレラに関して、症状や予防方法についての解説があり、質疑応答を実施しました。長崎大学言語教育研究センターの隈上麻衣先生の進行で、ガーナ、ケニア、コンゴ、ナイジェリア、ベトナム、中国、ホンジュラスの留学生とオールイングリッシュによる講義と英語での交流を楽しみました。

【生徒たちの感想】

<高校生>

- ・自然災害後の感染症については日本にいる私たちでも身近なテーマだったので、集中して話を聞くことが出来た。留学生の方によるプレゼンテーションも分からない単語はスライドと合わせて理解することが出来て良かった。
- ・ノロウイルスやコレラなどの感染症の広がり減らすためには、自ら汚染水は飲まない、手を確実に洗う、汚れた手で人と接触したり食べ物を食べたりしないなど心がけることや積極的に広める事(特に自然災害時など)、できることがたくさん分かってよかった。
- ・世界の感染症が流行する原因などを知ることができたので、自分たちにもできることがあったら積極的に協力できたらいいなと思いました。
- ・私は今回上手く自分の意見を英語にし、伝える事が出来なかった。だからこれからはもっともっと英語を勉強し、世界の多くの人とコミュニケーションをとればいいなと思った。
- ・実際に医学生から感染症について学ぶことができてリアリティがあり良かった。自分たちにはあまり馴染みのない病気でも原因や対策などは当たり前のことだったので自分たちがどれだけ恵まれているのかわかった。
- ・聞きなれない単語が出てきて、難しかったけど、普段、直接外国の方と話す機会がないからとても楽しかったし、いい経験になった。
- ・たくさんの英語に触れられていい機会になりました。また、リモートでの実施や語彙力が足りないこともあってあまり内容が理解できなかったのが残念でした。次回参加する際にはしっかり会話できるように鍛えておこうと思います。



(視聴覚室での ZOOM オンライン配信の様子)

<中学生>

- ・自分はウィルスへの興味から受講したため、正直、英語を理解できない可能性を考えていました。しかし、講師の伝えたいことは図などもあったため理解できました。それでも、質問がまとまらずできなかったため、次回までに質問をまとめる練習をして、より有意義なものにしたいです。
- ・災害時は災害そのものからの救助に目が行きがちだが、その後も被災者の生活は続いていくので衛生状態などの持続的な救助も大切だと感じた。また、国家間の衛生環境の格差を改善させたい。
- ・英語でのプレゼンテーションだったが、自分の知見を広げることができた。また、最近は感染症というとコロナウィルスのことばかりだが、今回はノロウイルス、コレラがテーマで非常に興味深い内容だった。